

地域の資源である介護事業所が地域に貢献できること～買い物支援でスマイルを！～

大阪市認知症介護指導者

明野 明子

キーワード：地域の困りごとを知る 地域の方々と顔馴染みに
認知症の方も私たちが地域の住民 社協との連携

活動の概要(活動の主体:最初は個人で始めたが、今は法人も応援してくれている)

【活動目的】

- ・地域の困りごとを一つずつ、小さいことからでも何かできるように取り組み、地域の方々に喜んでもらいたい。
- ・地域の方々と顔馴染みになり、困った時にここに介護事業所があることを思い出してもらいたい。
- ・介護保険利用も良いが、環境が整えば自分で行えることがたくさんある。自分で選択出来る喜びを思い出してもらい、挑戦してもらいたい。

【活動内容】

概ね2週間ごとに、事業所敷地を提供して、青果卸店に出店いただいている。最近は、洋服(介護服や下着、少量だが日用品やお菓子なども)や、事業所の隣にある企業の森永乳業も、飲料や即席みそ汁、豆腐などを販売してくださっている。

活動のきっかけ、背景(地域の介護専門職としての立場で)

- ・事業所近隣の新規利用者様アセスメント時に、この地域に買い物施設が無く、遠くまで歩いて買い物に行くことが困難な方がたくさんおられ、そのために介護認定申請をして買い物代行依頼をされていることを知って、介護保険利用ではなく何かインフォーマルで支援できないか考えた。

活動の経過と成果

【活動の経過】

・H30年5月に、事業所が今の場所(地域)に引っ越しした際に、新しい地域でも今まで同様に地域の方々より信頼いただける事業所作りを目指すことを考えていた。H30年度に大阪市社会福祉情報研修センターで、地域福祉実践講座を受講し、その講座で知り合った受講者(他区社協の生活支援CO)より移動販売の情報をもらい、その事業者に打診。社協や地域の方の協力を得て、H31年3月に第1回目の当事業所での移動販売を開催。チラシの効果もあって大盛況となり、地域の方々より「次はいつ?」「ここなら近いから自分の足で歩いて来れる」「自分で見て選べてうれしい」とのお声をいただく。オレンジチームが近隣の認知症をお持ちの方と一緒に来られたり、地域の認知症対応型デイが買い物レクや調理レクでスタッフと買い物に来てくれたり(普段ご自身で買い物されない方が多いこともあって、皆さんの眼が生き活きとされている)、当事業所2階のデイ(通所介護)利用者様(認知症の方や若年性の方も何名か)も、買い物を楽しみに

されている。途中から定年された男性のボランティアグループ「男組」の皆さん(社協のボランティアグループ)が、地域の方々が買い物された重い荷物を一緒に運ぶボランティア活動をしてくださっている。

【活動の成果】

開催当初より、1回に50名を超す来客があり、オープン前から並ばれていることも多くある。開催日案内のチラシを事業所の窓にも貼りだしている(開催は概ね2週間ごとで月2~3回実施)。今では移動販売時に地域の方々と顔馴染みになり、「元気?」「何かあったら頼むわな」「ここに介護事業所があるから安心」「認知症の人ってわからんわ、喋ったらみんな一緒やな」等の声をいただく。認知症の方の支払い場面では青果店レジの方のさりげない配慮があり、後ろで待たれている地域の方も笑顔で待ってくださっている。当事業所のデイ利用者やそのご家族からは、デイ利用日を移動販売の曜日へ変更、また臨時追加で利用したいと希望が多く上がっている。



今後の展望

地域の困りごとは他にもあり(入浴施設が近くにない等)介護事業所として検討しているが、コロナ感染拡大や職員不足もありなかなか前に進めていない現状のなか、定期的な買い物(スマイル八百屋)支援は継続している。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。